

## お腹の張りをやわらげ、生活の質を守る選択肢

がんの進行や肝臓の病気などによって、お腹の中に水がたまる「腹水」に悩む患者さんが増えています。腹水がたまるとお腹の張りや息苦しさ、食欲低下などが起き、日常生活に大きな負担がかかります。こうした症状をやわらげる治療のひとつとして、注目されているのが腹水濾縮再静注法（CART：Cell-free and Concentrated Ascites Reinfusion Therapy）です。

CARTは、お腹にたまった腹水をただ抜くだけではなく、その中に含まれる「アルブミン」など身体に必要な成分を取り出し、濃縮して体に戻す治療法です。腹水は水分だけでなく、大切なたんぱく質も多く含まれているため、それを再利用できる点が従来治療との大きな違いです。

治療は大きく3つの工程で行われます。まず腹水をゆっくりと体外へ取り出し、次に専用装置で細菌や細胞、不要物を除いて濃縮します。そして最後に、有用成分を含んだ濃縮腹水を点滴で身体へ戻します。この過程において、臨床工学技士が機器操作を担当し、医師や看護師と連携して治療を支えています。

CARTを行うことで、お腹の張りや息苦しさが軽くなり、食事がとりやすくなるなど、患者さんの生活の質（QOL）向上が期待できます。また、自分のアルブミン成分を戻すため、外からアルブミン製剤を大量に投与する必要が減り、感染リスクが増える心配もありません。

副作用として発熱や血圧低下などが見られることもありますが、多くは一時的で、医療スタッフが状態を確認しながら安全に実施します。治療時間は腹水の量にもよりますが、一般的に2～3時間程度で、保険適用のもと受けることができます。

腹水に悩む患者さんにとって、CART は身体の負担を軽減しながら日常生活を取り戻すための大切な選択肢のひとつです。困りごとがあれば、主治医や医療スタッフに相談してみてください。

【臨床工学科技士 大島 侑真】

